

2015 年度宮古訪問プログラム　みやっこベースの皆さんと交流

ともしび
共生委員会ニュース

2016 年度　2 号

2016 年 6 月 5 日版

共生委員会ニュース「ともしび」　　スクールモットー「地の塩、世の光」

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

World Refugee Day

Sam Berry（英語科）

Next week, on June 20th, the **United Nations (UN)** will celebrate “World **Refugee** Day”. Ban Ki-moon, the **secretary general** of the UN says, “Refugees are people like anyone else, like you and me…their biggest dream is to live normally again…On World Refugee Day, let us open our hearts to refugees everywhere”. I like that **quote**, “refugees are people like anyone else”. Sometimes it is easy to forget it. We watch the news about people who live far away, we read **statistics** in the newspaper. We can understand the **issue**, but maybe sometimes we think about “refugees” as an “issue”, rather than refugees as people. You are high school students in Tokyo, Japan, so it’s difficult to meet refugees face to face, human-to-human. Until we have a chance, I hope we can all remember refugees are people like anyone else, just like you and me.

Vocabulary

UN – 国際連合

Refugee – 難民

UN secretary general – 国際連合事務総長

quote – 引用

statistics – 統計

issue – 問題点、話題

If you are interested, here are some interesting links I found online.

1. Video of Syrian refugees in a camp in Jordan talking about their lives. English subtitles.

http://tinyurl.com/kyoseinews1

2. Very short video of how quickly war can change a child’s life: http://tinyurl.com/kyoseinews2

3. BBC interactive site. It makes us think about some of the decisions refugees escaping Syria have to make. http://tinyurl.com/kyoseinews3

グローバル・ウィーク　6 月 20 日（月）～25 日（土）

「共生」～サーヴァント・マインド

足元に目を向けるところから、高等部の SGH は始まる

今年度より、年に 2 回、スーパーグローバルハイスクールの一環として「グローバル・ウィーク」が設けられました。第 1 回目は「共生～サーヴァント・マインド」に関わる事柄へ目を向ける週としています。この機会に、共に生きる身近な人々へ目を向け、考えるきっかけにして下さい。

◎シリア難民として日本へ来て暮らすジャマールさんとの座談会

6/24(金)16：00～　申し込み：コースパワーまたは HR に掲示された参加申込書を提出

◎佐久間氏による「被災地の方と共に生きる」ワークショップ　6/25(土)午後

「もし災害が起こったら・・・」ボランティアコーディネーターをされた YMCA 佐久間さんと考えよう。

13：00～15：00　申し込み：コースパワーまたは 6/20 配布プリントの参加申込書を提出

◎ジャマールさんへ質問募集　6/21(火)締切（座談会に参加できない人もぜひ質問して下さい！）

◎礼拝　（月～金）

月　武藤　拓（理科　共生校外学習委員会）

火　三森妃佐子牧師（横浜　寿地区でホームレスの方の支援をされています）

水　Carroll, Andrew Scott（英語　共生校外学習委員会）

木　野田　沢牧師（学生キリスト教友愛会 SCF　被災地ボランティアをされています）

金　渡辺　健　（英語　SGH 委員会）

◎図書館　昼休みの映画鑑賞会　（火～金　昼休み「共生」に関わる作品を流します）

◎スペシャル・チャットルーム　（火～金　昼休み）難民の話題を英語で話し合います。キャロル先生へ申込

◎図書館カウンターで、出される「共生」に関わるクイズに答えて購買会チケットをもらおう。

◎「共生」に関する質問について、「ほんの小さな、できること」を考えて応募しよう。

提出先　図書館内に設置された専用ポスト　（詳細は 6/20 配布プリント参照）

◎「ネパールとつなぐ書き損じハガキ」　6/20(月)昼休み　(NPO 法人 Child Fund Japan の方のお話)

◎昼の放送（放送部）　6/22 日(水)　グローバル・ウィークのテーマソング”Waving Flag”をについて放送します。

◎寿町で炊き出しのお手伝いをしよう！

7 月 22 日（金）、7 月 29 日（金）　（それぞれの日について別々に募集）

ボランティア部とともに横浜の寿町でホームレスの方達への炊き出しのお手伝いを行いませんか？

参加希望者は、学年掲示板にある参加申込書に記入し、保護者の承諾サイン印をもらい、武藤(理科)または室田(地歴公民科)へ提出して下さい。締切 6/28(火)

集合 7:45　JR 石川町駅北口　（終了予定　最大 16：00）

引率　片山（ボランティア部顧問　数学科）、室田（ボランティア部顧問　地歴公民科）

「山の手空襲を語り継ぐ集い」に参加して

去る５月２９日、表参道一帯を焼け野原とした「山の手空襲」を語り継ぐ集いが、表参道にある穏田区民会館で開かれました。そのうちの体験記の朗読、体験者との交流に２年生のFさん、Iさん（朗読を担当）が参加しました。以下は参加した二人の感想文です。

ＨＲ２０１　F.J.「山の手空襲を知り」

あなたは知っていますか。毎日通るこの場所で、かつて一瞬にして奪われた多くの命があった事を。私はこの華やかな場所にどれだけ月日が流れても癒えない傷を今日まで知らずにいました。そして今、無知の罪の重さを抱えながらペンを握っています。一人でも多くにこの事実を知ってもらうために。

それは「山の手空襲」と呼ばれています。１９４５年５月２５日、東京山の手地域に米軍が焼夷弾を投下した無差別爆撃で、皇居や赤坂、青山などが標的になりました。投下された焼夷弾は３月１０日の東京大空襲のほぼ倍の３２５８ｔ、死者は３６５１人に上り、「東京空襲の総仕上げ」とも言われる凄惨さでした。

私はこの会に参加し、悲惨な体験を聞きましたが、衝撃を受けたのはそれだけではありませんでした。私を含め、不思慮で心無い人々にそれを語り継ぐことへの体験者の方々の心痛や虚しさは計り知れなく、私たちの無知や無頓着さが彼らをその後も苦しめてきたと知ったのです。時の流れは様々なものを変化させます。死体が積みあがった焼野原が、美しい今の青山に復興したように。また戦争を知らない私たちがそこを闊歩し、戦争はどんどん風化していきます。しかし街並みが元に戻ろうと、戦争体験者がいなくなっても、戦争を決して忘れてはいけないのです。私は戦争を知りません。けれど今日、戦争の悲劇が目に焼き付いた人の目を私は確かに見ました。必死に伝えて下さった命の叫びを忘れません。それを決して途絶えさせません。命のメッセージをありがとうございました。



ＨＲ２０４　I.S.

昭和２０年５月２５日の晩、渋谷が炎に包まれた事を私は今まで知りませんでした。自分が毎日の様に歩く欅の並木が戦火に焼かれた事、その並木の入り口に犠牲者を追悼する碑がある事、表参道の石灯籠で沢山の人が血を流し息絶えたことを、たった今渋谷にいる人々のうち、果たしてどれほどの人数が知っているでしょうか。きっと、その数は指を折って数えることができる程度だと思います。このような機会を頂かなければ、きっと私も何も知らない内の一人であったでしょう。今回、朗読をさせていただくにあたり、私は文章から様々なことを想像しました。肌を焼く炎の熱さ、真っ赤に染まった空、たくさんの遺体を目の当たりにした時の心境、家族・友人を失った悲しみ。ですがどんなに想像をしてもそれは想像にすぎません。平和な世に生まれ、暮らしている私たちには、実際に戦火の中を潜り抜けてきた人々の気持ちも体験も、そのほんの一部も理解することはできないでしょう。では、どうして体験者の方々は辛くて思い出したくない筈の体験をお語りになるのか。その問いに対して一人の体験者の方がおっしゃった事がとても印象に残っています。「私たちは今の人々に『理解』してもらおうとは思っていません。ただ『知る』ことをしてほしいのです。人々が知り、後世に語り継ぐことが平和に繋がると思っています。」私は幸いにも今回の貴重な経験を経て戦争を『知る』事ができました。ですが周囲にはまだ『知らない』人々が沢山います。このような人々に今回の体験を話すことが、私にできる最大限の“小さな一歩”だと信じています。」

2016 年度　岩手県宮古訪問プログラム　参加者募集

日程：　８月４日（木）～８月７日（日）　３泊４日

訪問地：　岩手県宮古市、釜石市

内容：　宮古市田老地区防災研修、宮古北高校、みやっこベースとの交流、釜石ボランティアセンター及び仮設住宅へ滞在など

申し込み・問い合わせ：　武藤（理科　物理・地学）まで

締切：６月１６日(木)

募集人数：　15 名程度

宮古北高校へ行って、宮古の高校生と共に考えよう！

みやっこベースから地元愛を持って活動するエネルギーを感じよう！

仮設住宅に住む被災者の方と交流しよう！

三陸海岸の海の幸も味わおう！

第 4 回 FOR 会のお知らせ

大学生と一緒に被災地支援について考えよう！

６月１０日（金）１５：４５～　西校舎 2 階大会議室

FOR（エフ・オー・アール）会は、未来《Future》のための意見《Opinion》をもう一度考える《Reconsider》会という意味で、被災地岩手県立宮古市でボランティア活動を続ける大学生が企画し、被災地支援やボランティアについて高等部生と一緒に考える機会を作ってくれています。２０１４年度１月から始まり、今回が４回目となりました。

宮古へ訪問したいと思っている人も、残念ながら訪問プログラムには参加できないけど・・・という人も気軽に参加して下さい。（出入り自由です。）

＊＊

【お知らせ】

◎平和・共生に関する活動に興味がある人は武藤、相良、藤本、中久木、キャロル、ベリーまで。

◎次回共生委員会ニュースに掲載する文章を募集中です。（武藤まで）

◎カフェテリアの掲示板に平和・共生に関する募集などの掲示をしています。

学校へ案内が来たものを特に取捨選択せず、掲示しています。特に学校から推薦するというものではありませんので、イベントなどに参加する場合、保護者の方に相談し、各自の責任で申し込みをして下さい。